

第1学年「生活」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 自然と触れ合ったり関わったりすることに関心がある児童が多い。

○ 身近な人々と、関わって活動することを楽しみにしている児童が多い。

課題 ▼ 生き物や周りの様子について、よく見よう、試してみよう、確かめてみようという気持ちをもつ児童は少ない。

指導の重点（身に付けさせたい力）

◇ 身近な自然に興味関心をもち、活動できる力

◇ 活動後に気付いたことを表現できる力

具体的な改善策

○ 学校施設を活用した身近な自然と直接関わる活動を充実させる。

○ ペアやグループによる発表（カードや話し合い）の機会を多くすることで気付きを深める。

○ 気付きや発見が難しい児童には個別に声をかけて促す。

達成目標

◎ 様々な体験を通して、自分で発見したり、気付いたりできるようになる。

◎ アサガオなど、栽培するものに愛着をもち、最後まで世話ができるようになる。

□ 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付ける。

□ 数の数え方や計算の仕方を考える力、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。

□ 算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。